

ウィークリー・アウトルック

米感謝祭と英秋季予算案

※ウィークリー・アウトルックの次号は 12 月 9 日(火)に配信予定です。マンスリー・アウトルック 12 月号は 12 月 1 日(月)に配信予定です。

【今週のポイント】

- ・発表される経済指標がまばらななか、米 FOMC の利下げ観測は高まるか
- ・英国の秋季予算(26 年度)を受けた長期金利の反応は？
- ・RBNZ 会合を受けて市場の金融政策見通しがどうなるか
- ・カナダGDPで BOC の利下げ打ち止め観測が高まるか

先週(11/17-)は米ドルが堅調。主要株価指数が大幅に下落、VIX 指数(別名「恐怖指数」)が急騰して、リスクオフが強まりました。英ポンドやユーロも堅調。主要通貨の中では例外的に円が軟調でした。

先週末には米株が反発し、週明け 24 日にも S&P500 が前週末から 2.7%上昇するなど、株式市場は落ち着きを取り戻しつつあるようにみえます。25 日には日経平均も反発しています(正午時点)。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
11月24日		【日】勤労感謝の日の振替休日			
	14:00	【シンガポール】CPI 前年比(10月)	実績: 1.2%		0.7%
	18:00	【独】IFO企業景況感指数(11月)	実績: 88.1		88.4
11月25日	22:30	【米】小売売上高前月比(9月)	0.4%	0.4%	0.6%
		【米】PPI前年比(9月)	2.6%	2.6%	2.6%
	24:00	【米】消費者信頼感指数(11月)	93.0	93.3	94.6
11月26日		【英】リーブス財務相が秋季予算案を発表			
	9:30	【豪】CPI 前年比(10月)	3.6%	3.6%	3.5%
	10:00	【NZ】RBNZ政策金利	2.25%	2.25%	2.50%
	11:00	【NZ】ホークスビーRBNZ総裁の記者会見			
	28:00	【米】ページブック(地区連銀経済報告)			
11月27日		【米】祝日(サンクスギビングデー)			
11月28日		【米】ブラックフライデー。年末商戦が本格化			
	22:00	【独】EU基準CPI速報値 前年比(11月)	2.4%	2.4%	2.3%
	22:30	【カナダ】GDP 前期比年率(7-9月期)	0.6%	0.5%	-1.6%

市場予想はBloomberg、11月25日9:00現在。発表日時は日本時間。

今週は、27 日が米国のサンクスギビングデー（感謝祭）。シャットダウン（政府機能の一部停止）が解消され、航空管制も正常化しているとみられ、人々の移動/旅行には支障はなさそうです。市場では参加者の減少が見込まれ、材料次第では市場が大きく動く可能性もあるため、注意は必要でしょう。

サンクスギビングデー翌日 28 日はブラックフライデー。週明け 12 月 1 日のサイバーマンデーと合わせて、クリスマス商戦の滑り出しはどうなるでしょうか。NRF（全米小売連盟）は、クリスマス商戦の売上高を前年比 3.7%～4.2%増と予想しています。その通りであれば、昨年（実績 4.3%）と比べても遜色ないかもしれません。

日本では 28 日の 11 月東京都都区部 CPI（消費者物価指数）に注目。長期金利の上昇基調が続くかどうか、東京 CPI は重要なカギとなるかもしれません。また、円安が進行した場合に、本邦当局から一段と強いけん制発言や為替介入の示唆があるかどうか。10 月以降の円安のピッチが速かっただけに、状況次第では大きく反転する可能性もありそうです。

英国では 26 日発表の秋季予算案（26 年度＝26 年 4 月からの 1 年間）に注目。所得税率引き上げは断念されたようですが、代わりとなる財政赤字削減策は盛り込まれるか。赤字削減策が不十分だと市場に判断されれば、長期金利が上昇して英ポンドに下落圧力が加わるかもしれません。＜西田＞

* * * * *

今週は、26 日に RBNZ（NZ 中銀）の政策会合が開かれます。仮に市場予想どおり 0.25% 利下げすることが決定されれば、会合後に実施される RBNZ 総裁の会見などで 26 年の金融政策についてどのようなヒントが提供されるかが焦点になりそうです。会合の結果に NZ ドル/円や NZ ドル/米ドルが反応すると考えられます。

同じく 26 日に豪州の 10 月 CPI（消費者物価指数）が発表されます。CPI の結果を受け、RBA（豪中銀）の金融政策に対する市場の見方がどのように変化するか注目です。豪ドル/NZ ドルについては、豪 CPI の結果にも反応しそうです。

カナダの 7-9 月期 GDP（国内総生産）が 28 日に発表されます。BOC による利下げは前回 10 月会合をもって打ち止めとの観測が市場にはあります。カナダの GDP はその観測を高める結果になるのか注目されます。

原油価格の動向も材料になるかもしれません。米 WTI 原油先物は 10 月 20 日に一時 1 バレル＝56.35 ドルへと下落し、5 カ月半ぶりの安値を記録。その後、62 ドル台へと反発する場面があったものの、再び軟化しています（11/24 の終値は 58.84 ドル）。原油価格が軟調な主要な要因として、原油の供給過剰への懸念があるようです。原油価格の下落が続く場合、メキシコペソやカナダドルにとってマイナスになる可能性があります。＜八代＞

今週の注目通貨ペア①: <米ドル/円 予想レンジ: 153.000 円~158.000 円>

「(責任ある)積極財政と緩和的金融政策」という、いわゆるサナエノミクスは円安を誘発するポリシーミックスでしょう。ただ、片山財務相は 21 日に為替介入に言及しており、米ドル/円が 160 円を目指して上昇する場面があるとしても、介入警戒感は強まりそうです。

21 日にはウィリアムズ NY 連銀総裁が「近いうちに利下げする余地がある」と述べたことで、米 FOMC の利下げ観測が高まりました。ウィリアムズ総裁は FOMC の常任投票メンバーで、会合の副議長を務めるため(FRB の副議長は別)、その影響力/発言力は単なる地区連銀総裁の枠を超えるかもしれません。

もっとも、米シャットダウン(政府機能の一部停止)は 12 日に解消したものの、経済指標の発表はまばらです。10・11 月雇用統計、11 月 CPI(10 月分は欠落)、11 月 PCE(同左?)、7-9 月期 GDP 確定値などは全て 12 月 9-10 日 FOMC 後に発表されます。同 FOMC では、ADP 雇用や消費者信頼感、ISM 製造業/非製造業景況指数などの民間統計や、ページブック(地区連銀経済報告)などが判断材料になるでしょうが、そこで「利下げが必要」との判断に至るかどうか。10 月 28-29 日開催の FOMC 議事録によれば、少なくともその時点では「12 月は据え置き」が既定路線だったようにみえます。<西田>

今週の注目通貨ペア②: <英ポンド/米ドル 予想レンジ: 1.26000 ドル~1.33000 ドル>

26 日(日本時間 21:30)発表の英国の秋季予算案(26 年度)に対する市場の反応に要注意でしょう。14 日に所得税率引き上げが見送られたとの報道を受けて、英長期金利(10 年物国債利回り)は大幅に上昇、FTSE100 株価指数は下落し、英ポンドも上下に振れました。

すでに様々に報道されているため、22 年 9 月の「トラス・ショック(※)」のような急激なトリプル安はなさそうです。それでも、支持率低迷に喘ぐスターマー政権が増税や歳出削減を含む財政健全化策で議会の同意を取り付けるのは至難の業でしょう。26 年 4 月の新年度開始に向けて予算/財政政策はスターマー政権のアキレス腱となり続けるかもしれません。

※ジョンソン首相の後を継いだトラス首相が、財源が不透明な減税案を発表すると、長期金利が上昇(国債価格が下落)、株価が下落、英ポンドも下落する、トリプル安が起きました。

12 月 18 日の BOE(英中銀)の会合では 0.25%の利下げがほぼ確実視されています。ただ、その前提はインフレの落ち着きと緊縮的な財政政策のはず。仮に、秋季予算案を受けて英ポンドが下落するなど市場が動揺するならば、BOE の利下げ観測にも影響は出そうです。<西田>

今週の注目通貨ペア③: <豪ドル/NZドル 予想レンジ: 1.14000NZドル~1.16500NZドル>

26 日に RBNZ(NZ 中銀)の政策会合が開かれます。その結果に豪ドル/NZドルが反応しそうです。

市場では、26 日の会合で 0.25%の利下げ行われるとの見方が大勢です。その通りの結果になれば、会合の議事要旨や RBNZ 総裁会見、RBNZ による政策金利見通しで、26 年の金融政策についてどのようなヒントが示されるのかに注目です。市場では、RBNZ による利下げは今回で打ち止めとの観測があり

ます。

同じく 26 日に豪州の 10 月 CPI(消費者物価指数)が発表されます。その結果にも注目です。RBA(豪中銀)は政策金利を当面据え置くとの見方が優勢です。

市場で RBNZ の利下げ打ち止め観測が高まる一方で、RBA による追加利下げ観測が浮上する場合、豪ドル/NZドルは軟調に推移する可能性があります。＜八代＞

今週の注目通貨ペア④: <米ドル/カナダドル 予想レンジ: 1.39500 カナダドル~1.42000 カナダドル>

BOC(カナダ中銀)は 24 年 6 月以降、前回 25 年 10 月の会合まで 9 回合計 2.75%の利下げを実施しました。現在の政策金利は 2.25%です。

前回会合の BOC 声明では「インフレと経済活動が(BOC の)予測とおおむね一致して推移する場合、現在の政策金利はほぼ適切な水準」と表明されました。市場では、BOC の利下げサイクルは打ち止めと見方が優勢です。今週は 28 日にカナダの 7-9 月期 GDP が発表されます。それが市場予想と比べて強い結果になれば、BOC の利下げ打ち止め観測がさらに高まりそうです。

一方で市場では、FRB は 12 月の FOMC(米連邦公開市場委員会)で追加利下げを行うとの観測が高まっています。今後発表される米国の経済指標などでその観測が一段と高まるか注目です。

FRB と BOC の金融政策面からみれば、FRB による追加利下げ観測が高まり、BOC による利下げ打ち止め観測が高まるようなら、米ドル/カナダドルは下値を試す展開になると考えられます。＜八代＞

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘（にしだ あきひろ）

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也（やしろ かずや）

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したのですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
